

奄美群島

観光しまづくりプラン



令和6年3月

奄美群島広域事務組合

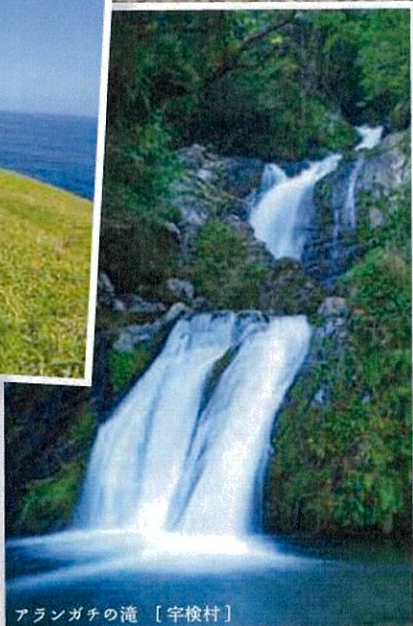
宮古崎【大和村】



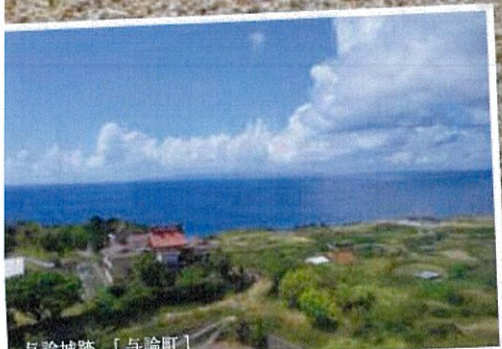
闘牛【伊仙町】



ヤッコ踊り【知名町】



アランガチの滝【宇検村】



与論城跡【与論町】



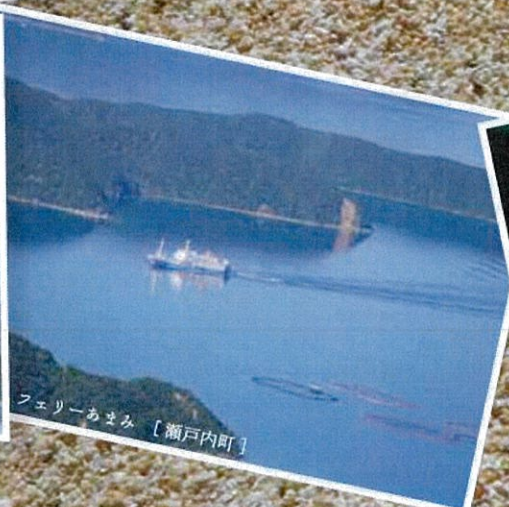
犬田布岬【伊仙町】



トクカ【徳之島町】



秋名アラセン行事 ショチヨガマ【龍郷町】



フェリーあまみ【瀬戸内町】



マテリヤの滝【大和村】



ムシロ瀬【天城町】



鳥唄【瀬戸内町】



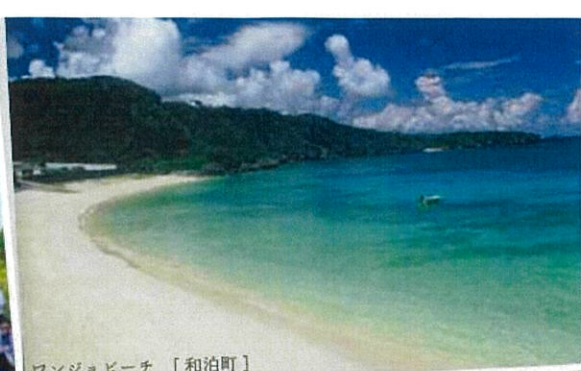
笠石海滨公園【和泊町】



星空と魔女の木 [喜界町]



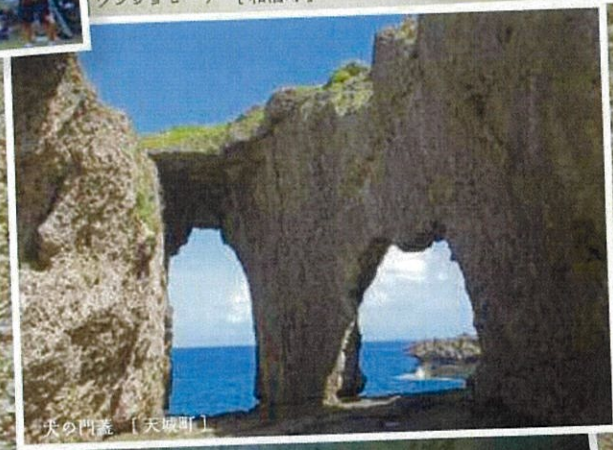
盆十五夜踊り [与論町]



ワンジョビーチ [和泊町]



さとうきびの一本道 [喜界町]



天の門岩 [天城町]



奄美まつりパレード [奄美市]



ケイビング [知名町]



ハートロック [龍郷町]



湯湾岳 [宇検村]



蛙ブリンズビーチ [徳之島町]



奄美まつり舟こぎ競争 [奄美市]

目次

1	計画策定について	1
	(1) 計画策定の背景と目的	2
	(2) 計画の構成	3
	(3) 計画の位置付け	4
	(4) 計画期間と計画の見直し	4
	(5) 検討プロセス	5
2	奄美群島の観光の現状と課題	7
	(1) 奄美群島の観光を取り巻く状況	8
	(2) 奄美群島の観光の課題	38
3	奄美群島の観光の基本的な考え方	43
4	奄美群島の将来像の実現に向けた取組	49
5	今後の進め方	65
	(1) 観光しまづくりの推進体制	66
	(2) モニタリング指標	67
	(3) 推進スケジュール	68
	資料編	71

1

計画策定について

1 計画策定について

(1) 計画策定の背景と目的

奄美群島への関心が高まり、観光施策の方向性を示すことが求められています

奄美群島は奄美群島国立公園の指定（平成 29（2017）年7月）、世界自然遺産「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」に登録（令和 3（2021）年 7 月）され、近年、注目度が高まっています。世界自然遺産への登録にあたっては、日本では 5 番目、鹿児島県では屋久島に次ぎ 2 番目であり、県を超えて沖縄本島北部・西表島とともに登録されました。豊かな自然環境はもちろんのこと、歴史文化や集落景観等も奄美群島らしい資源として評価されています。これらを生かした持続可能な観光地域づくりを実現するためには、各島だけでなく奄美群島が一体となって取り組むことが重要であり、その方向性を示す観光施策のマスタープランが求められています。



ビジョンのもと観光を通して奄美群島の将来像の実現に向けた取組を示します

群島民の幸福度のさらなる向上を目的として、奄美群島の持続的発展に向けた将来像と基本理念を示し、住民、民間事業者、教育機関、行政など全てのプレイヤーが連携するための指針となる「奄美群島成長戦略ビジョン 2033」（以下、「ビジョン」という。）を令和4年度に策定しました。

本計画は、ビジョンのもと観光を通して奄美群島の将来像を実現するために策定するものです。奄美群島内の各自治体・各島の観光施策を尊重した上で、奄美群島全体で取り組むべき施策を整理しました。さらに、奄美群島が一体となって取り組むために関連する各島での取組についても示しています。

観光客だけでなく島民の満足度を高めるための観光しまづくりプランとします

近年、観光政策では「観光まちづくり」という考え方が広がっています。「地域が主体となって、自然、文化、歴史、産業、人材など、地域のあらゆる資源を活かすことによって、交流を振興し、活力あふれるまちを実現するための活動^{*1}」と定義されています。観光という手段を使って資源や地域の魅力を高めることは、観光客の満足度だけでなく、地域の暮らしや島民の幸福度の向上にもつながると思います。

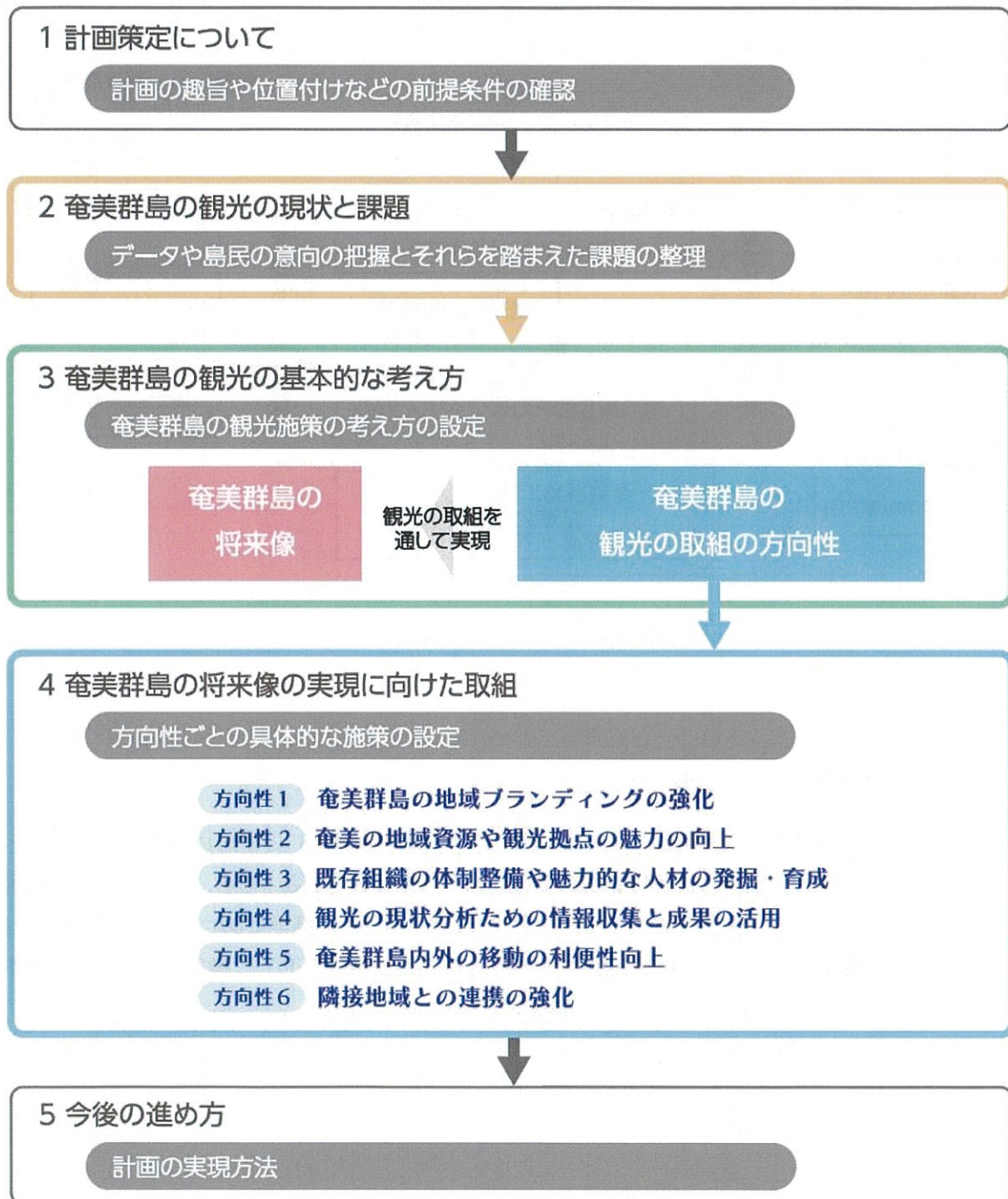


奄美群島は有人8島で構成されています。人々が暮らす奄美の島々に観光まちづくりの考え方を取り入れることで、観光客にも島民にも満足度の高い地域を形成する意図から「観光しまづくりプラン」としました。

^{*1}国土交通省観光政策審議会答申「21世紀初頭における観光振興方策について」（平成 12（2000）年 12 月）

(2) 計画の構成

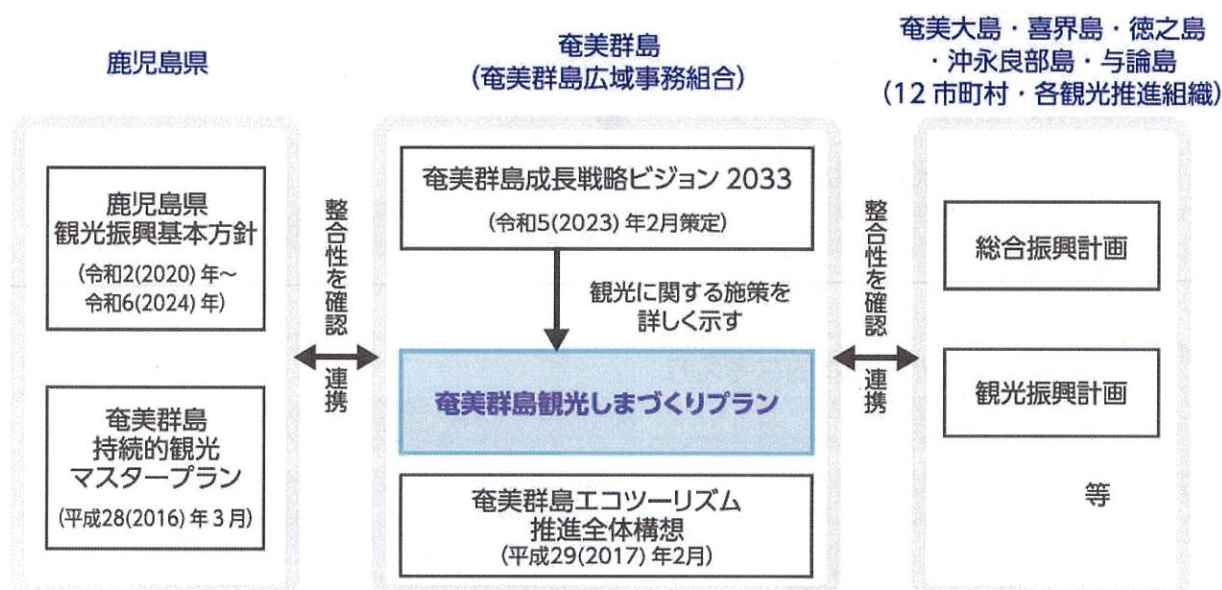
本計画は大きく5つの章で構成しています。1章では本計画の趣旨や位置付けなど前提条件を記載しています。2章では奄美群島の観光の現状についてデータや島民の皆さんからの声をまとめ、課題を整理しました。3章では今後の奄美群島の観光施策の考え方と6つの方向性を設定しています。4章では6つの方向性ごとに具体的な施策を示しています。5章では本計画の実現方法を示しています。



(3) 計画の位置付け

本計画は、奄美群島内の12市町村や各観光推進組織、鹿児島県の観光施策と整合性をとったうえで、ビジョンに基づき奄美群島広域事務組合及び（一社）奄美群島観光物産協会が奄美群島全体で推進する観光振興の基本的な考え方や施策を示すものです。

奄美群島内の12市町村や各観光推進組織、鹿児島県と連携しながら取組み、特に世界自然遺産に関連するものについては、「奄美群島持続的観光マスタープラン」（鹿児島県、平成28（2016）年3月）を踏まえて、鹿児島県と協力しながら推進します。



(4) 計画期間と計画の見直し

本計画の計画期間は、令和6（2024）年度～令和15（2033）年度の10年間とします。観光施策は社会情勢等の変化による影響が大きいことから、10年間の計画期間内において、上位計画であるビジョンの改定の見直しの時期にあわせて5年ごとに計画内容を点検・評価し見直しを行います。さらに、必要に応じて、適宜見直しを行います。

見直しにあたっては、有識者等の専門家に協力いただきながら取組みます。

(5) 検討プロセス

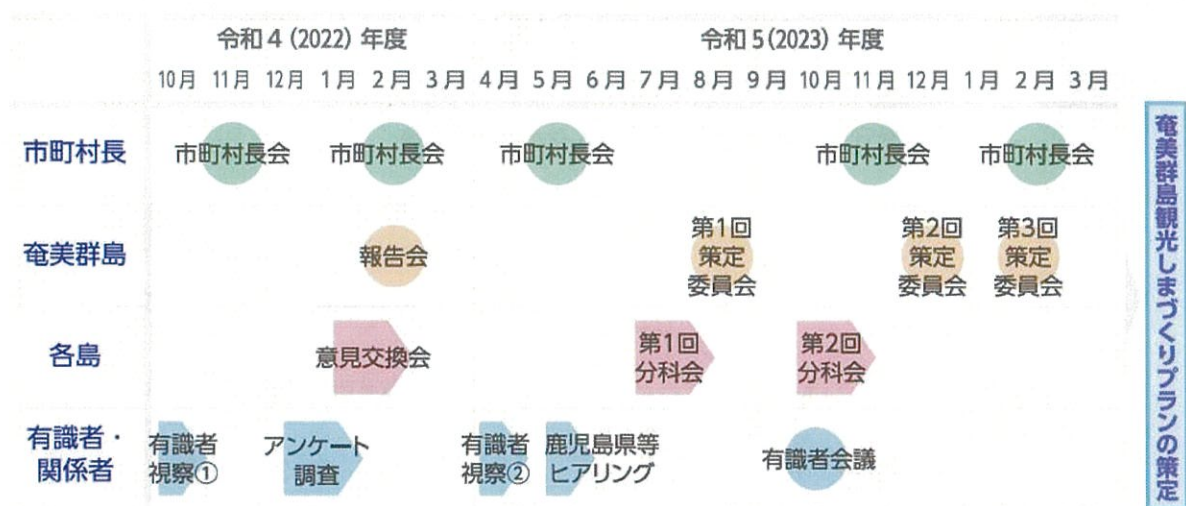
奄美群島の観光産業で働く方々や奄美群島内の観光部署の方々、専門家と、令和4（2022）年度～令和5（2023）年度の2力年にわたり意見交換を重ねて本計画を策定しました。

奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の島ごとに、「意見交換会」と「分科会」を開催し、島の皆さんの奄美群島における観光の現状や今後についての考えを伺いました。

各島での意見を踏まえて奄美群島全体としてどのように観光に取り組むべきか、奄美群島内の12市町村の観光担当課や観光推進組織が一同に会し、「報告会」と「策定委員会」で意見交換を行いました。

奄美群島市町村長会に適宜報告しながら、令和6（2024）年2月の奄美群島市町村長会の承諾を経て、本計画は策定されています。

さらに、自治体や観光推進組織へのアンケート調査、鹿児島県や民間事業者の方々等へのヒアリング、有識者会議等も行い、皆さんの声を集め、奄美群島としての観光のあるべき姿について検討しました。



策定委員長からのメッセージ

観光を活かした、群島民の幸福度を高めるためのひとつの指針として、奄美群島全体で策定したこの観光しまづくりプランです。観光による地域づくりの実現という共通の目的に向かい実践できればと思います。

それぞれの「しま」の環境下で生きる住民の誇りや豊かさが、その「しま」の個性的な魅力と価値を創出し、地域の宝として発信できるよう群島一丸となって取り組んで行きましょう！



宇検村
辰島企画観光課長

奄美群島成長戦略ビジョン 2033

奄美群島 12 市町村は「奄美群島成長戦略ビジョン」のもと、各種施策に取組み着実に成果を上げてきました。

残された課題や社会情勢の変化を踏まえて「群島民の幸福度」をさらに高めるため、関係者が連携する指針として令和5（2023）年にビジョンを改定しました。



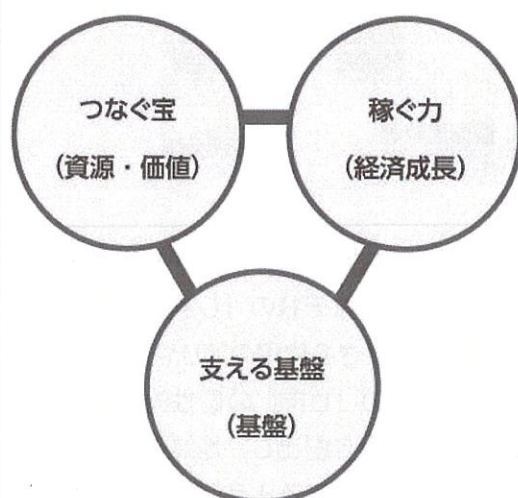
基本理念

群島民が幸せに生活するため、前ビジョンの基本理念である重点3分野を継承しつつ、新たに3つの柱（つなぐ宝、稼ぐ力、支える基盤）を基軸として、自然と文化を守り受け継ぐとともに、仕事の創出に重点をおいた産業振興を目指す

奄美群島の将来像

- 若者がチャレンジし、夢を実現する島
- 全ての「島ちゅ」が主人公として活躍する島
- 宝を守り、受け継ぎ、世界の人々と共有する島

3つの柱



つなぐ宝3分野

自然環境 文化
教育
(教育で自然と文化を次世代に繋ぐ)

稼ぐ力4分野

農林水産業 ものづくり
観光 / 交流 情報通信業

支える基盤3分野

ひと エネルギー
(教育、人材育成 (再生可能エネルギー)
/ 確保、定住)
デジタル
(DX、情報通信インフラ)

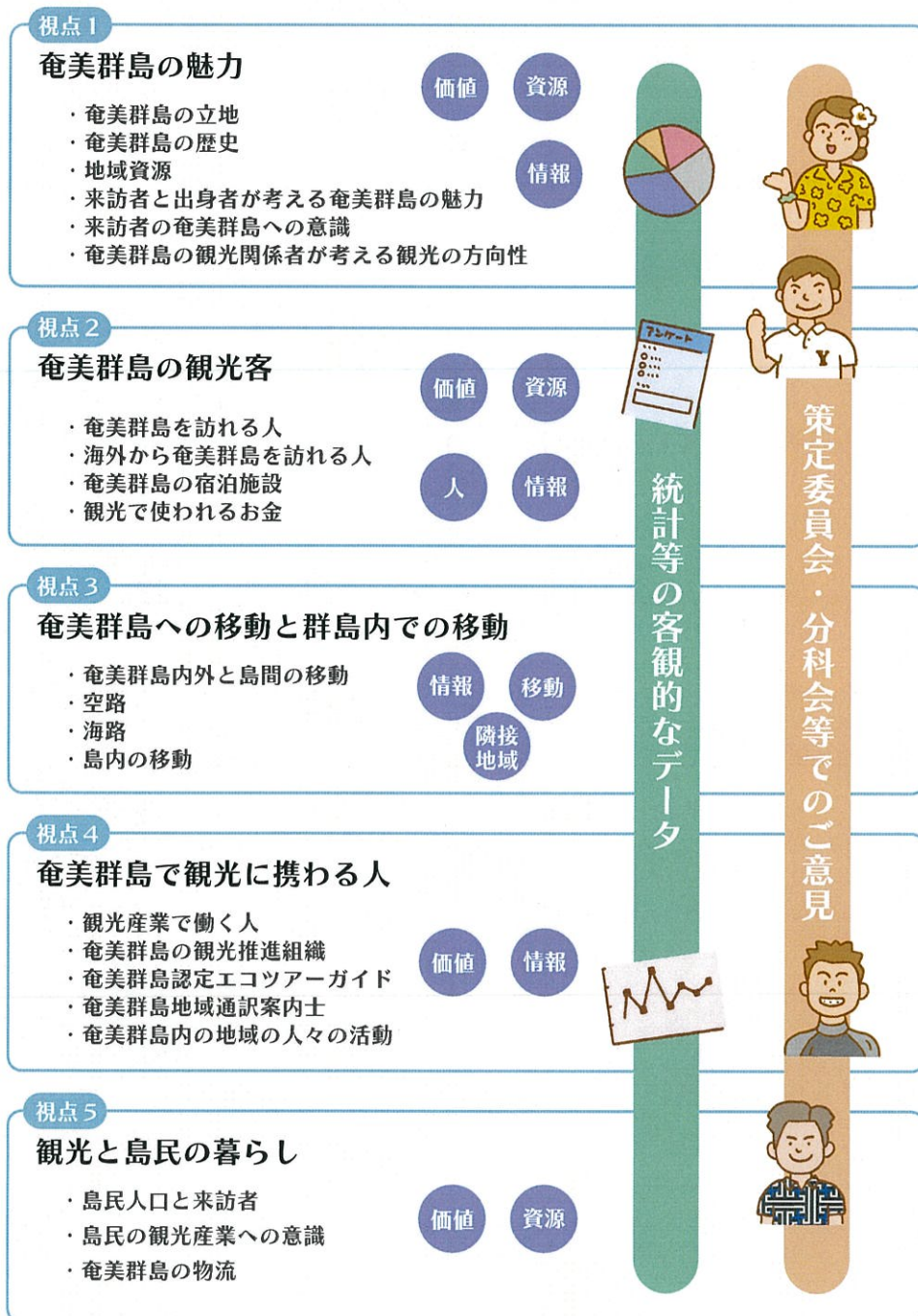
2

奄美群島の観光の現状と課題

2 奄美群島の観光の現状と課題

(1) 奄美群島の観光を取り巻く状況

奄美群島の観光を取り巻く状況について、統計等の客観的なデータとともに、策定委員会や分科会等でいただいたご意見を5つの視点で整理しました。



視点1 奄美群島の魅力

奄美群島の立地

奄美群島は、鹿児島市の南方 380 ～ 580 キロメートルの海上に点在する8つの有人島（奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島）で構成されています。

奄美群島を中心にとらえると、鹿児島市よりも那覇市の方が近く、世界自然遺産に登録された屋久島も近接しています。

また、東京や大阪よりも東アジアの主要都市（台北、上海、釜山）への距離が近く、海外からの観光客も期待できる立地となっています。



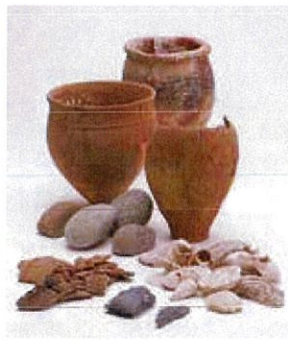
国土地理院地図（標準地図）を加工して作成

奄美群島の歴史

アジア大陸の東海域、九州と沖縄諸島の間に位置する奄美群島は、周辺各地との関わり合いによって、奄美独自の文化を育んできました。

先史時代

奄美群島では、旧石器時代の人類の痕跡が確認されています。その後、九州の縄文文化や弥生文化の影響を受けつつ、亜熱帯の島特有の狩猟・漁労・採集の文化が花開きました。古墳時代を代表する古墳は作られず、日本とは異なる歴史を歩んできました。



面縄貝塚出土品【徳之島】



上城（うえんじょ）跡・上城遺跡【与論島】

古代・中世

7世紀の奄美の島々には、古代国家と朝貢を行う政治的関係にあったと考えられています。11世紀前後に農耕を受け入れ、鉄の生産を開始し、琉球列島と九州間の交易の拠点的な役割を担いました。鎌倉時代にもこの状況が続き、薩南諸島は「口五島（くちごとう）」「奥七島（おくしちとう）」から成る「十二島」と「外五島」（奄美群島）として認識されるようになります。



喜界島山田半田遺跡【喜界島】



徳之島カムイヤキ陶器窯跡【徳之島】

琉球国の時代

15世紀初頭、沖縄本島に「琉球国」が成立しました。琉球国は15世紀中頃に奄美群島を統治下に置いたと考えられています。これにより、琉球国の「間切制」と呼ばれる統治の仕組みが奄美群島に導入されました。統治にあたっては、ノロ（祝女）という女性の神職が重要な祭祀を取り行いました。



ノロの扇【喜界島】



後蘭孫八城跡【沖永良部島】

薩摩藩の時代

江戸時代の1609年、薩摩藩は軍事侵攻によって琉球国を支配下に置きながらも、独立国家として存続させました。一方、琉球国から薩摩藩に割譲された奄美群島は、表向きは琉球国の一部でありましたが、実質的には薩摩藩に編入されました。



屋川（やごー）石樋【与論島】



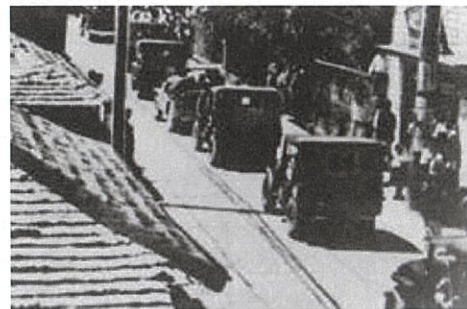
開饒（ひらとみ）神社【奄美大島】

近代・現代

明治政府は明治4（1871）年に「廃藩置県」を施行し、その翌年、琉球国は琉球藩とする手続きがなされて、明治12（1879）年に沖縄県となりました。この時、奄美群島は鹿児島県の管轄とされました。戦後、奄美群島は琉球列島米国民政府（USCAR）の統治下を経て、昭和28（1953）年12月25日に日本に復帰しました。



安脚場（あんきゃば）戦跡公園【奄美大島】



米軍の進駐【奄美大島】

出典：各市町村、奄美市フォトライブラリー

地域資源

奄美群島において観光資源となりうる地域資源は、自然環境を中心に多種多様な要素で構成されています。

自然環境・ 景勝地

砂浜のある海岸や岬、南国ならではの森、ガジュマルの大木といった奄美群島で見ることのできる独自の自然環境や景勝地は、主要な地域資源として観光客を集めています。



百合ヶ浜【与論島】

観光関連 施設

島の概況や歴史文化を伝える国や鹿児島県、各市町村の施設や、景勝地を見るための展望台等が、各島に設けられています。



奄美パーク【奄美大島】

歴史文化

歴史を伝える文化財や史跡、戦跡といった場所だけでなく、島唄や浜下れ（はまおれ）のような昔から今に伝わる文化も奄美群島の貴重な地域資源です。



世之主の墓【沖永良部島】

集落行事

奄美群島では旧暦で開催される昔から伝わる伝統的な豊年祭や夏祭り、体育祭等の現代的なものが集落行事として年間を通じて開催されています。



八月踊り【奄美大島】

出典：与論町、（公社）鹿児島県観光連盟、宇検村

策定委員会・分科会等でいただいた主なご意見

- ・ブランディングに必要な取組を何層も掘り下げて考え、優先順位をつけて一つずつ解決することで最上位の課題を解決することができる
- ・奄美らしさや島らしさ、集落らしさが見える化することができれば、奄美群島全体としてブランド価値につながるのでは
- ・体験や地元の人とのコミュニケーションが大切
- ・自然や生活文化を継承する価値観は、社会とともに変化することが必要
- ・奄美大島以外の島のそれぞれの魅力が外の人に伝わっていない。もっと発信する必要がある
- ・島ごとの情報発信は難しいので、連携が必要
- ・お互いの島の事情を知ることができると良い
- ・沖縄との差別化は何かというのが永遠のテーマ
- ・沖縄の観光産業に携わる立場から奄美群島がどのように見えるか確認が必要では

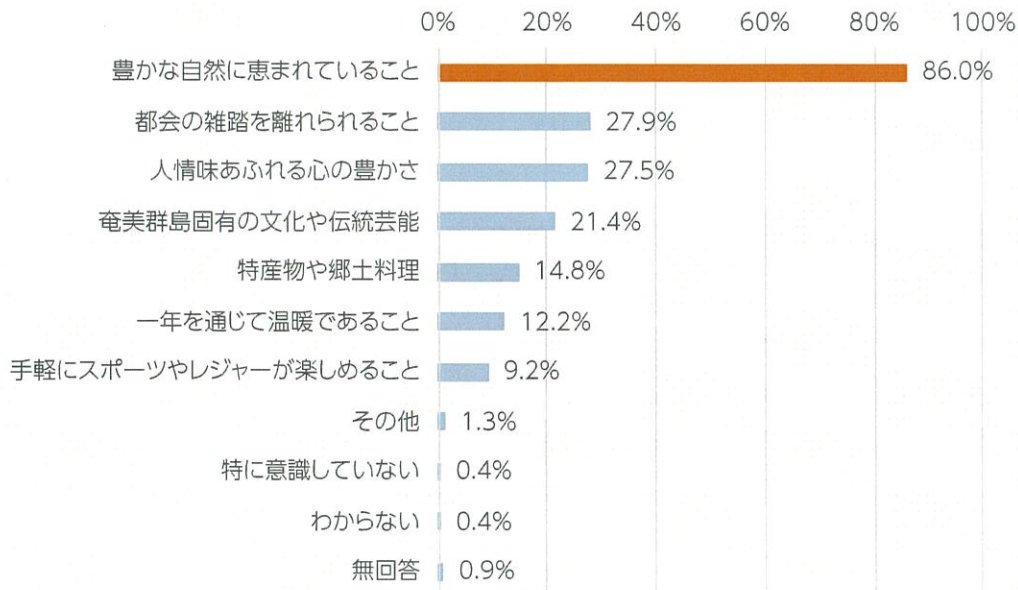


来訪者と出身者が考える奄美群島の魅力

奄美群島の来訪者や出身者を対象としたアンケート調査において奄美群島の魅力を尋ねたところ、いずれも「豊かな自然に恵まれていること」への回答が最も多くなっています。特に来訪者の9割弱が「豊かな自然に恵まれていること」としています。

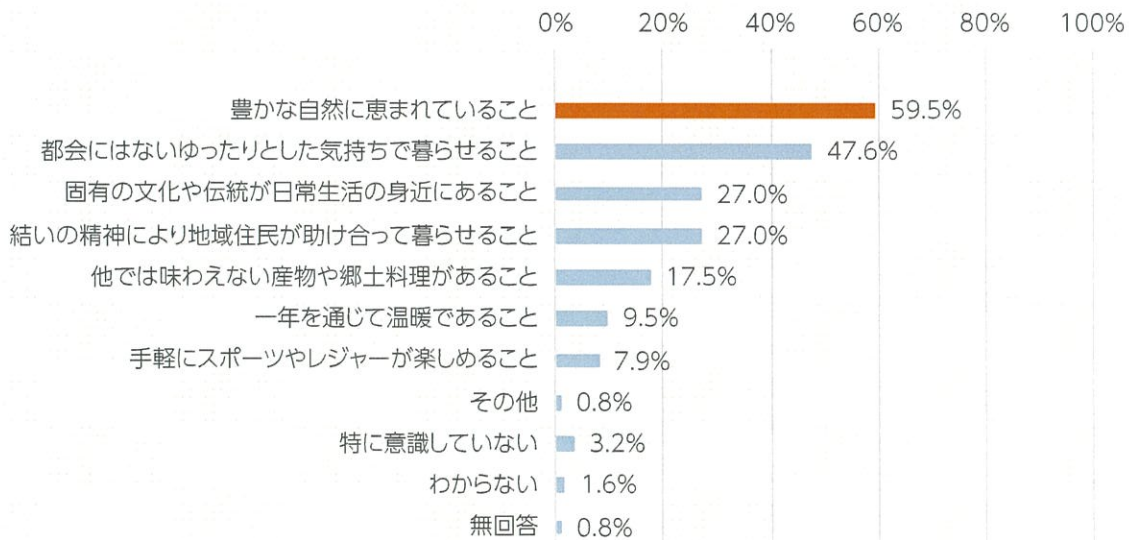
来訪者にとっての奄美群島の魅力

(n = 229)



出身者にとっての奄美群島の魅力

(n = 126)



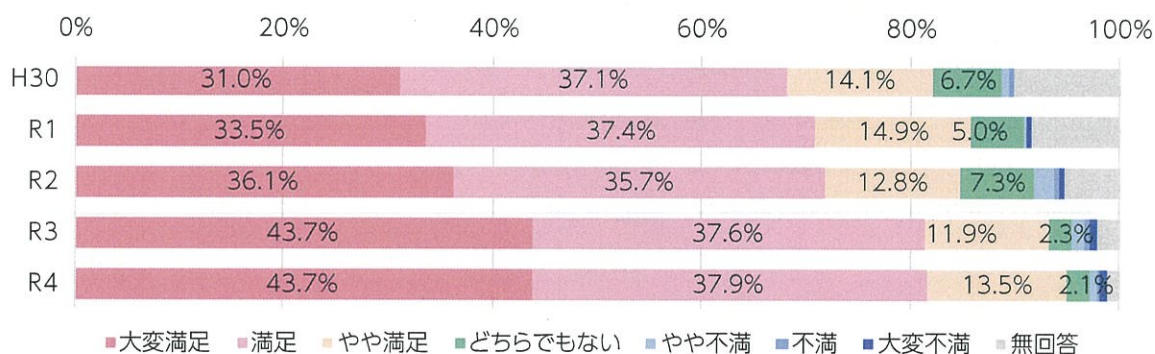
資料：令和4年度奄美群島振興開発アンケート

来訪者の奄美群島への意識

(一社) 奄美群島観光物産協会では、平成 29 (2017) 年より毎年、奄美群島の各島を訪れる観光客を対象にアンケート調査を行っています。

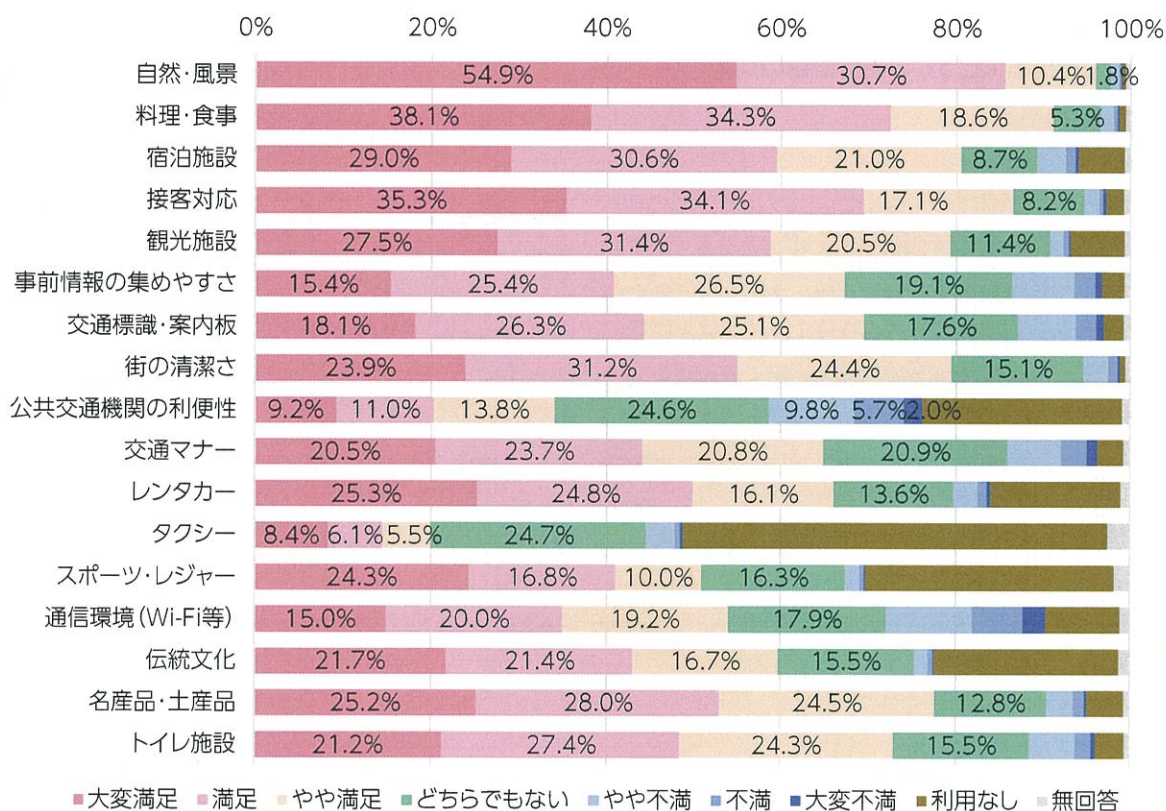
来訪の満足度として、旅行全体では、8～9割の方が満足しており、年々満足度が増加しています。項目別では、「自然・風景」、「料理・食事」、「接客対応」の満足度が高いことが分かります。満足度の低い項目としては、「タクシー」、「公共交通機関の利便性」があげられています。

コロナ禍前後の満足度の推移



項目別満足度 (R4)

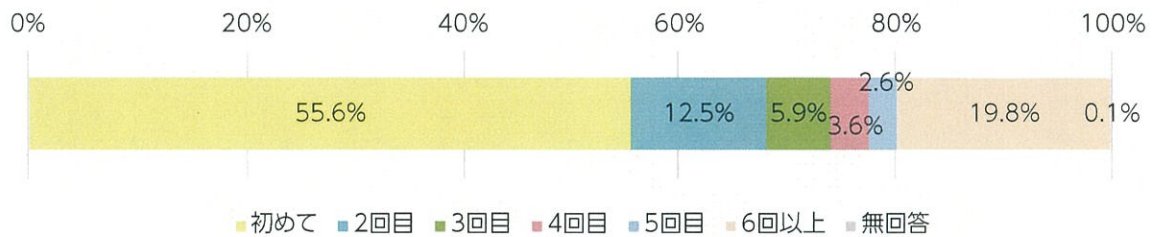
(n = 5,926)



来訪者の半数以上が奄美群島に「初めて」訪れており、再訪について尋ねると「ぜひ訪れたい」「訪れたい」「少し訪れたい」をあわせて96%が再び奄美群島に訪れたいと回答しています。さらに、他の人に勧めたいかどうかについても、ほぼ同じ割合で「勧めたい」と回答しています。

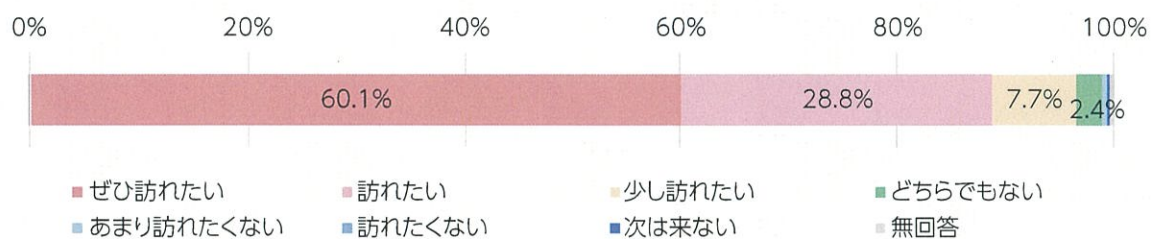
奄美群島への来訪者のリピーター率 (R4)

(n = 5,926)



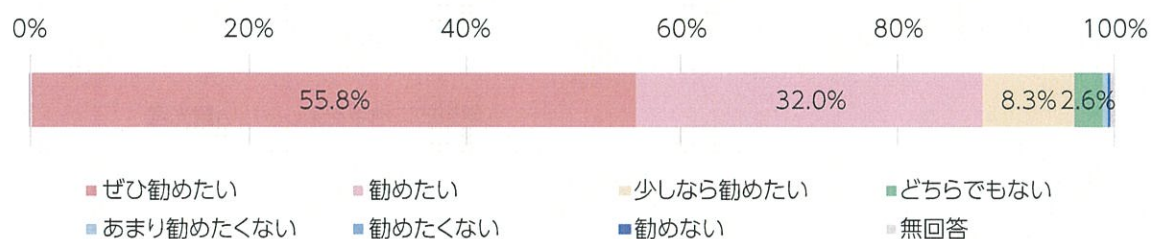
奄美群島への来訪者の再来訪意向 (R4)

(n = 5,926)



奄美群島の来訪者の推奨度 (R4)

(n = 5,926)



資料：奄美群島観光振興基礎調査

策定委員会・分科会等いただいた主なご意見

・事前に島について知ってから観光したほうが楽しかったというお客さまの意見がある。島のことを知ってから来てもらうと質の高い観光になるのでは。しかし、そもそも島に来てもらう必要がある

・集落歩きの場合、テーマがつかないので屋久島と奄美大島をあわせて訪れる人は少ない。ストーリーでつなぐことができれば、自然遺産の地域として来るのではない



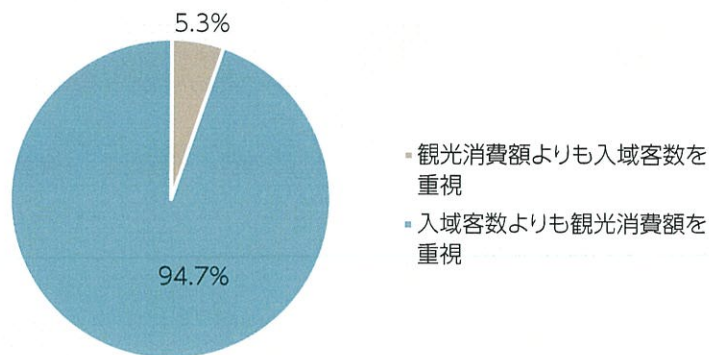
奄美群島の観光関係者が考える観光の方向性

奄美群島の各自治体や観光推進組織を対象としたアンケート調査では、奄美群島全体の観光誘客を考える上で重視すべきこととして、9割以上が「入域客数よりも観光消費額を重視」していることが分かりました。

また、奄美群島全体で誘客すべき観光客像についても同様に、9割以上で「責任ある観光行動をとれる観光客の誘客」を求めています。

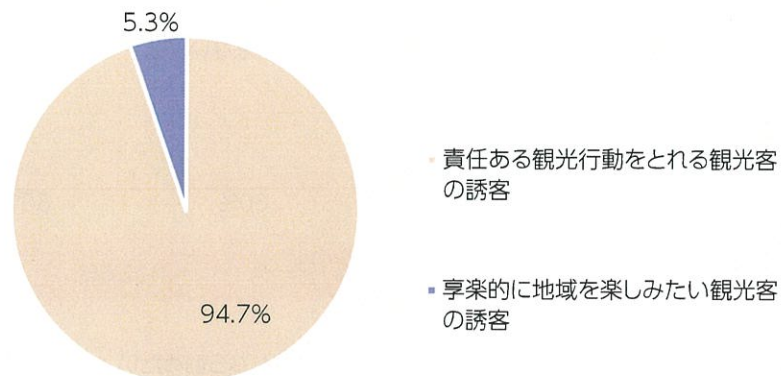
奄美群島全体の観光誘客を考える上で重視すべきこと

(n = 19)



奄美群島全体で誘客すべき観光客像

(n = 19)



資料：奄美群島観光マスタープラン（仮称）策定に向けたアンケート調査

策定委員会・分科会等でいただいた主なご意見

- ・住民が奄美の地域を考え大切にすることが重要
- ・土地を売却する看板があり、乱開発につながりかねないと心配。景観条例だけで規制できるわけではないが、市町村で奄美らしい景観を誘導してほしい
- ・集落におじゃまする気持ちで訪れてほしい、と観光客には伝えている。集落によってはルールを作っているところもあるが、どれだけの人が見ているのか。パンフレットや看板で周知しても、トラブルが起きているところもある



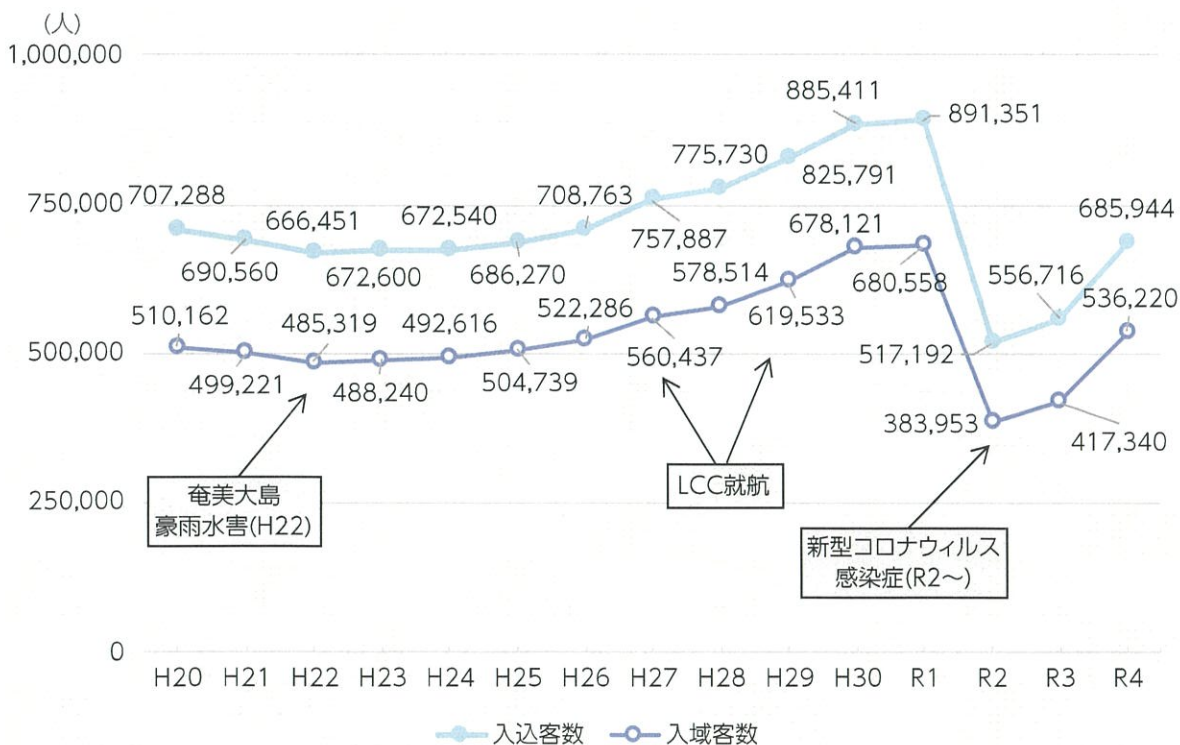
視点2 奄美群島の観光客

奄美群島を訪れる人

奄美群島及び各島の入込および入域客数の推移における過去15年間の動向については、平成22(2010)年の奄美豪雨災害前後の観光の低迷期を経て、平成26(2014)年のLCCの奄美大島～成田間の就航を契機に増加傾向が明確になり、平成29(2017)年のLCCの関西路線(奄美大島～関空)の開設や奄美群島交流需要喚起対策特別事業、沖縄・奄美連携交流促進事業等による旅客運賃の低減といった官民各主体が実施した取組が奏功し、令和元(2019)年までの客数は増加傾向で推移しています。

活況を呈していたコロナ禍以前の奄美群島の観光は、令和2(2020)年の新型コロナウイルス感染症による世界的な規模のパンデミックにより客数が大きく下落しました。コロナ禍の影響は令和4(2022)年まで続いています。全国旅行支援等の旅行や観光の喚起策等によって奄美群島の客数は回復傾向となっています。

過去15年間の奄美群島の入込・入域客数の推移

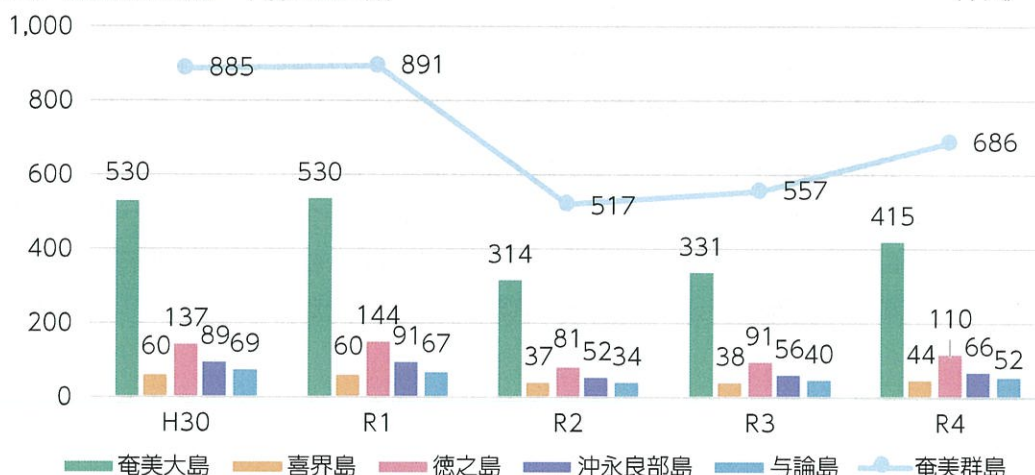


資料：奄美群島への入込・入域客数、奄美群島観光の動向

コロナ禍の令和2（2020）年3月以降の客数は、いずれの島も大きく下落していますが、令和3（2021）年10月以降は、「Go toトラベルキャンペーン」をはじめとする国や県、各市町村等が実施した観光支援策の効果とともに、全国的な感染者数の減少によって観光需要が戻り始めた影響がうかがえます。

コロナ禍前後の島別・年別入込客数

(千人)



資料：奄美群島の概況

各島の面積と周囲および、平成30（2018）年～令和元（2019）年の入込客数にもとづくコロナ禍以前の奄美群島のおおよその月別入込客数の比較すると、奄美大島と他の島では面積が異なるため入込客数にも差が見られます。

島	島の面積	島の周囲	おおよその月別入込客数
奄美大島	712.35 km ²	461.1km	約 35,000 ～ 65,000 人
喜界島	56.76 km ²	50.0km	約 4,500 ～ 7,000 人
徳之島	247.85 km ²	89.6km	約 10,000 ～ 15,000 人
沖永良部島	93.65 km ²	55.9km	約 7,000 ～ 10,000 人
与論島	20.56 km ²	23.7km	約 4,500 ～ 8,000 人

策定委員会・分科会等でいただいた主なご意見

- ・入込客数を気にするのではなく、質の良い観光客を呼び込みたい
- ・観光に関する統計データの収集は群島全体でやれると良い
- ・商用で来ている人が多い。建設業で訪れる人が長期滞在をしていて、満室の宿泊施設も多い
- ・データを収集する意味も一緒に理解する必要がある。ただデータを見ているだけではもったいない
- ・お客様にもう少し来てほしいが、大々的なプロモーションは違うと思う
- ・滞在時間を延長してもらうには、どのデータを見れば良いか分からない



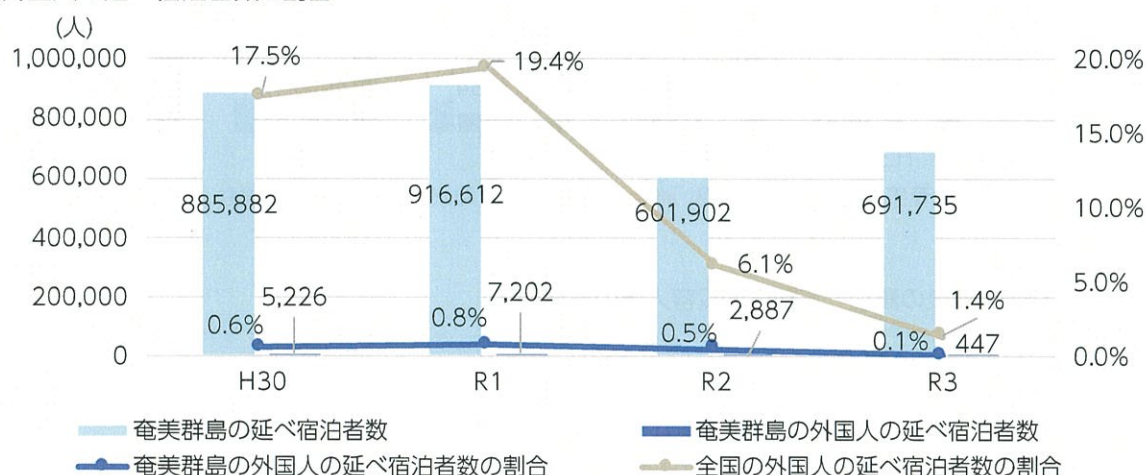
海外から奄美群島を訪れる人

延べ宿泊者数のうち外国人は2～7千人でしたが、コロナ禍により令和3（2021）年には約500人にまで減少しました。

延べ宿泊客数のうち外国人が占める割合は、平成30（2018）年以降は1%弱で推移し、コロナ禍の影響により令和2（2020）年には0.1%まで減少しています。全国の外国人宿泊者数の割合と比較すると、奄美群島では海外からの観光客の占める割合が低い状況となっています。

また、クルーズ船はコロナ禍の影響で令和3（2021）年には寄港がありませんでしたが、令和4（2022）年には再び寄港するようになりました。

外国人の延べ宿泊客数と割合



クルーズ船の乗客数・寄港数

	クルーズ船寄港数	クルーズ船乗客数	クルーズ船あたりの乗客数
H30	25 回	24,082 人	963.3 人
R1	27 回	19,914 人	737.6 人
R2	2 回	623 人	311.5 人
R3	0 回	0 人	0.0 人
R4	9 回	2,543 人	282.6 人

資料：奄美群島の概況

策定委員会・分科会等でいただいた主なご意見

- ・海外から誘致したい島と国内の観光客を中心にしたい島など、島ごとに考えは異なる
- ・住民はインバウンドに好意的ではあるが、大人数で奄美群島に来ることは難しいのでは
- ・インバウンド観光客が島を訪れた時、事前に想

定していたことと違うことが起きないようにPRが必要

- ・インバウンドへの苦手意識がある
- ・クルーズ船から下船しても受け皿の交通手段が不足している



奄美群島の宿泊施設

宿泊施設については、当初、平成 30(2018) 年に世界自然遺産登録を目指していたため、奄美大島では平成 30(2018) 年以前より民泊（簡易宿所）の保健所への届出件数が急増していました。奄美大島の宿泊施設軒数は顕著な増加傾向が見られます。宿泊収容人員は宿泊施設軒数の増加傾向に比べ、増加傾向は緩やかになっています。

奄美大島以外の各島では、沖永良部島と与論島は、宿泊施設の軒数、収容人数とも減少しており、観光客の受入れは奄美大島が突出しています。

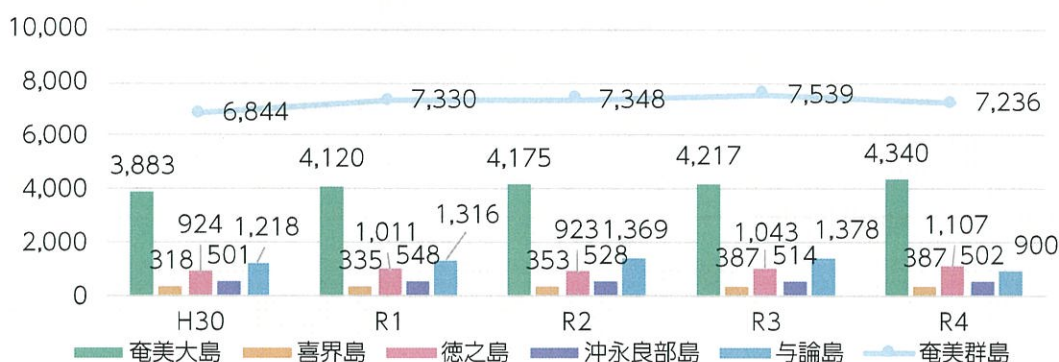
コロナ禍前後の島別・年別宿泊施設軒数の推移

(軒)



コロナ禍前後の島別・年別宿泊収容人員の推移

(人)



策定委員会・分科会等でいただいた主なご意見

資料：奄美群島の概況

- ・団体客、個人客等の様々な客層に対応した宿泊施設のバリエーションは必要
- ・大きな旅行会社からお客さまを誘致する場合、施設の規模が小さいという課題があるが、これ以上大きなホテルを作ることができない
- ・宿が不足している。これ以上の客数は宿泊施設の状態から難しい
- ・宿泊施設がもう少し増えた場合、飲食店等も不足する。働き手もいない。島内のランチの需要

- は少ない。働く人の家を確保する必要もある
- ・宿泊施設を増やす必要があるが、民宿は後継ぎがない。出張の需要に対応できる宿は限定されている
- ・一棟貸し等の長期滞在の宿が増え、奄美らしさを知ってもらえるのでは。宿としても対応が楽になり、移住体験にもなる。長期滞在は宿泊費が高く経営的にも良い



観光で使われるお金

奄美群島全体で見た一人当たりの観光消費額の合計額は毎年ほぼ増加傾向にあり、令和4(2022)年には約7万円弱となっています。コロナ禍の影響もあまり見られませんでした。

費目別に見ると「宿泊費」が最も高く2万円以上となっています。次いで、「飲食費」「島内での交通費」の金額が高くなっています。

コロナ禍前後の奄美群島全体の一人当たりの観光消費額の推移

(円)

費目	H30	R1	R2	R3	R4
宿泊費	19,766	21,010	26,003	24,362	25,369
島内での交通費	6,981	6,775	7,060	7,822	8,057
飲食費	11,419	12,063	11,987	12,565	14,055
農産物（果物・野菜・花等）	729	1,109	969	819	1,079
水産物（鮮魚・魚介類等）	372	476	484	691	672
お酒・飲料	3,005	2,710	3,274	2,802	2,990
その他の食料品・菓子	4,204	4,599	4,059	2,430	3,247
伝統工芸品（大島紬・染め物等）	4,658	2,460	2,006	1,117	1,787
その他製造品（文具・玩具・キーホルダー等）	394	880	532	439	469
テーマパーク・レジャーランド等	360	400	339	617	652
観光施設・資料館・植物園等	492	486	429	544	662
ゴルフ場・グラウンドゴルフ場等	144	71	275	116	63
スポーツ観戦・コンサート等	8	53	4	24	25
遊漁船（釣り、ホエールウォッチング、グラスボート等）	686	741	1,129	1,507	944
ダイビング	1,435	1,623	3,121	2,814	3,396
サーフィン	142	70	284	120	109
ケイビング	251	190	1,004	—	—
パラグライダー	—	—	—	163	75
ガイドツアー	948	1,451	2,212	2,378	2,055
その他ガイド料・体験料（シマ博・工芸体験・カヌー体験・シュノーケル等）	1,184	1,335	2,040	1,282	2,032
レンタル料（レンタカーは除く）	132	190	84	194	168
エステ・マッサージ	138	233	87	167	119
ウエディング関係	—	—	—	332	368
郵便・宅配便	223	339	334	220	308
その他	308	108	254	437	274
合計	57,979	59,373	67,968	63,962	68,975

資料：奄美群島観光基礎調査